

2016

12/4 SUN

京都SJCD 第3回例会

TKP京都四条烏丸

カンファレンスセンター

<http://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/cc-kyoto-shijokarasuma/>

AM10:00～PM5:00



1954年 埼玉県出身

1976年 明治大学

政治経済学部経済学科卒業

1986年 岩手医科大学歯学部卒業

1993年 東京都千代田区

岡口歯科クリニック開業

東京SJCD理事

東京SJCDマイクロスコープインストラクター

JEA関東甲信越会員

日本顎咬合学会指導医

カールツァイス公認マイクロスコープインストラクター

AMED(academy of microscope enhanced dentistry)会員

10:00～10:05 尾上会長挨拶

10:10～10:50 安藤誉先生

咬合平面の不正を改善し咬合再構成を行った一症例
～全顎治療へのファーストステップ～

11:00～11:50 森田良二先生

歯性上下顎前突の一症例

13:00～17:00 岡口 守雄 先生 ご講演

岡口 守雄 先生 講演会

『マイクロスコープを用いた精密歯科治療』

17年前に出会った、マイクロスコープがもたらす拡大視野の歯科治療は、私の臨床の最大の技術革新です。マイクロスコープが普及した現在、単に見るためのツールではなく、いかに使いこなしその拡大視野の世界を精密な臨床に反映させるかがテーマになってきていると思います。

審美治療、MIを極めようとするとき、肉眼を超えた処置が必ず必要になります。修復物を適合させるオーダーをいかに下げることができるか、健全なエナメル質をいかに切削せず残していくか、充填物の移行部の滑らかさなどマイクロスコープなしには達成できません。

さらに、肉眼では見ることができなかった歯内療法の世界においても、マイクロスコープ下では、複雑な解剖学的形態に潜む様々な感染源を実際に見て治療することができるようになりました。そして、CBCT、OKマイクロエクスカといったツールを併用することにより従来、難治療症例といわれ抜歯を余儀なくされていたケースにおいても、治癒する可能性が大きく広がりました。

また、一方で、歯内療法におけるもう一つの重要なカテゴリーであるVital pulp therapy (歯髄保存)もマイクロスコープの登場により大きく変化してきています。拡大視野の中で行う精密で限局的な感染象牙質の除去により、従来の基準では、保存が不可能であると思われていた歯髄も残すことができるようになってきたのです。

このように、マイクロスコープはただ見るだけでなく使いこなすことで私たちの手を「ゴッドハンド」変えてくれる可能性を秘めたツールです。現在私の歯科臨床全ての処置をマイクロスコープ下で行っていますが、その中から様々な症例をお見せし、マイクロスコープどう生かすかということをお話ししたいと思います。

参加費 会員無料 オブザーバー 歯科医師 5000円 (当日6000円)

技工士 3500円 コデンタルスタッフ 3000円 (当日4000円)

学生 無料

振込先 京都銀行 八木支店 普) 3630046 京都SJCD会計 秋田洋季

お問い合わせ 京都SJCD事務局 0771-42-2345 (秋田)

お申し込み方法 onoedc@me.com (尾上宛)にお名前・勤務先・ご住所・電話番号・E-mailなどをお書き頂いて送信してください。参加費は振込でお願いします。※手数料はご負担お願い致します。